

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）	Blank
供給者	オリンパス株式会社
住所	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス
電話番号	0120-580414
FAX	03-6901-4251
緊急連絡電話番号	ケムトレック（Chemtrec） 米国：1-800-424-9300、国際：+1 703-527-3887
製品コード	Part #: 930001
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	サンプル。

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類	
物理化学的危険性	GHS分類基準に該当しない。
健康に対する有害性	発がん性（吸入） 区分1A 特定標的臓器毒性、反復ばく露（吸入） 区分2（肺、呼吸器系）
環境に対する有害性	GHS分類基準に該当しない。

## GHSラベル要素

## 絵表示



## 注意喚起語

危険

## 危険有害性情報

吸入すると発がんのおそれ。吸入すると、長期にわたる、または反復暴露による臓器（肺、呼吸器系）の障害のおそれ。

## 注意書き

## 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。粉じんを吸入しないこと。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 応急措置

暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。

## 保管

施錠して保管すること。

## 廃棄

内容物/容器は、地域/地方/国/国際法律に従って処理する。

## 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

## 重要な徴候

粉塵は気道、皮膚、眼を刺激することがある。咳。胸部不快感。息切れ。長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。

## 非常事態の概要

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。発がんのおそれ。粉末または粉塵に暴露すると眼、鼻および喉の刺激を引き起こす恐れがある。本物質のじん埃を長時間 / 繰り返し吸入すると、慢性的な肺の病気（珪肺症）及び / 又は肺がんにつながる恐れがあります。

## 国/地域情報

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 単一製品

成分	CAS番号	官報公示整理番号		
		化審法	安衛法	含有量 (%)
二酸化ケイ素	7631-86-9	(1)-548	(1)-548	100

## 化学式

O<sub>2</sub>Si (7631-86-9)

## 組成情報

成分がガスでない限り、全ての濃度は重量パーセントである。ガス濃度は容量パーセントである

## 4. 応急措置

## 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動する。症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡する。

## 皮膚に付着した場合

石けんと水で洗い流す。刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。

## 眼に入った場合

眼を擦ってはならない。水で洗う。刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。

## 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。症状が現れたら医師の手当てを受ける。

## 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

粉塵は気道、皮膚、眼を刺激することがある。咳。胸部不快感。息切れ。

## 応急措置をする者の保護

暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。

## 医師に対する特別な注意事項

一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。被災者の観察を続ける。症状は遅れて出てくることがある。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

周辺の物質の火災に適した消火剤を使う。

### 使ってはならない消火剤

知見なし。

### 火災時の特有の危険有害性

火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。

### 特有の消火方法

未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。

### 消火を行う者の保護

火災の際は自給式呼吸器および全身保護衣を着用しなければならない。

### 一般的な火災の危険性

異常な火災や爆発の危険性は知られていない。

### 特定の消火方法

通常消火手順を用いる。影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

十分な換気を確保する。関係者以外の立ち入りを禁止する。清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。粉じんを吸入しないこと。個人保護措置については、本SDSの項目8を参照。

### 環境に対する注意事項

下水や水路、地面への排出を避ける。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

清掃中、じん埃を発生させないでください。HEPAフィルタを備えた掃除機を使用して粉塵を集める。容器に回収してしっかり密封する。流出物を回収した容器には、正確な内容物と危険シンボルを記載したラベルを貼らなければならない。廃棄物処理については本SDS第13項を参照。

### 二次災害の防止策

環境への放出を避けること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策（局所排気、全体換気等）

粉塵が発生する場所では、換気を適切に行う。

#### 安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。塵の生成や蓄積を最小限にする。粉塵が発生する場所では、換気を適切に行う。粉じんを吸入しないこと。もし可能であれば、閉鎖系で取り扱うこと。産業衛生に気を配る。本SDS第8項で推奨されている個人用保護具を使用すること。

#### 接触回避

より詳しい情報については第10項を参照。

#### 適切な衛生対策

あらゆる医学的監視要件を遵守すること。本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。

### 保管

#### 安全な保管条件

施錠して保管すること。容器を密閉しておくこと。換気の良い場所で保管すること。混触危険物質（本SDS第10項を参照）から離して保管すること。

#### 安全な容器包装材料

元の容器に密閉して保管する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 暴露限界値

#### 日本産業衛生学会－許容濃度

物質	タイプ	数値	形状
二酸化ケイ素（CAS 7631-86-9）	最大許容濃度	0.03 mg/m <sup>3</sup>	呼吸性粉塵

#### ACGIH

物質	タイプ	数値	形状
二酸化ケイ素（CAS 7631-86-9）	TWA	0.025 mg/m <sup>3</sup>	吸入性画分。

### 設備対策

もし可能であれば、閉鎖系で取り扱うこと。適切な全体換気（換気回数1時間に10回程度）を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空气中濃度を暴露限界値以下に保つ。暴露限界値が設定されていない場合も、空气中の濃度を適切な濃度以下に抑える。エンジニアリング基準によりダスト微粒子の濃度をOEL以下に十分維持できない場合、呼吸器官を保護しなければなりません。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

防塵フィルタ付き呼吸具を着用すること。

#### 手の保護具

衛生上の措置について特別な記録はないが、化学物質を取り扱うときは常に衛生に気を配ることが望ましい。

#### 目の保護具

接触のリスクがある場合：サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）を着用する。

#### 皮膚及び身体への保護具

通常の使用条件下では、普通は皮膚の保護は必要でない。優良工業衛生規範に従って、皮膚との接触を避けるための予防措置を取らなくてはならない。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 外観

#### 物理的状态

固体。

形状	粉末。
色	白色。
臭い	無臭。
pH	該当しない。
融点・凝固点	1710 ° C (3110 ° F)
沸点, 初留点及び沸騰範囲	2230 ° C (4046 ° F)
引火点	該当しない。
燃焼性 (固体, ガス)	非引火性
燃焼又は爆発範囲	
燃焼又は爆発範囲一下限 (%)	該当しない。
燃焼又は爆発範囲一上限 (%)	該当しない。
爆発下限界 (%)	データなし。
爆発上限界 (%)	データなし。
蒸気圧	該当しない。
蒸気密度	該当しない。
蒸発速度	該当しない。
比重	データなし。
溶解度	
水溶性	水に不溶。
n-オクタノール/水分配係数	該当しない。
自然発火温度 (発火点)	該当しない。
分解温度	データなし。
粘度 (粘性率)	該当しない。
その他の情報	
密度	2.20 - 2.60 g/cm <sup>3</sup>
爆発性状	爆発物でない。
分子式	O <sub>2</sub> Si
酸化能力	酸化性でない。

## 10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件では安定。
化学安定度	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	粉塵の生成を避ける。 混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸化剤。 フッ化水素酸。 マグネシウム。
危険有害な分解生成物	危険有害な分解生成物は知られていない。

## 11. 有害性情報

急性毒性	急性毒性であるとは予想されない。
皮膚腐食性/刺激性	じん埃または粉末が皮膚を刺激する恐れがあります。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	粉塵は眼を刺激することがある。
呼吸器または皮膚の感作	
呼吸器感作性	データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。
皮膚感作性	この製品は、皮膚感作を引き起こすとは思われない。
生殖細胞変異原性	本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に関して、変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。
発がん性	吸入すると発がんのおそれ。
ACGIH発がん性物質	
二酸化ケイ素 (CAS 7631-86-9)	A2 ヒトに対して発がん性が疑われる物質
IARC発がん性評価モノグラフ	
二酸化ケイ素 (CAS 7631-86-9)	1 ヒトに対して発がん性がある
日本産業衛生学会 - 発がん性物質	
二酸化ケイ素 (CAS 7631-86-9)	1 ヒトに対して発がん性がある
NTP発がん性物質レポート	
二酸化ケイ素 (CAS 7631-86-9)	ヒト発がん性があることが知られている物質。
生殖毒性	この製品は、生殖影響または発生影響を引き起こすとは予想されない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	データが部分的または完全に欠如しているため分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	吸入すると、長期にわたる、又は反復暴露による臓器 (肺, 呼吸器系) の障害のおそれ。
吸引性呼吸器有害性	製品の物理的形態により、吸引性危険有害性ではない。
その他の情報	本物質のじん埃を長時間 / 繰り返し吸入すると、慢性的な肺の病気 (珪肺症) 及び / 又は肺がんにつながる恐れがあります。

## 12. 環境影響情報

生態毒性	水生生物に対して有害であるとは予想されない。
残留性/分解性	該当しない。
生体蓄積性	この製品は生体蓄積性ではない。
土壤中の移動性	この製品は水に溶けない。
オゾン層への有害性	オゾン層に対して危険有害性でない。
他の有害影響	その他の環境悪影響（例、オゾン層破壊、光化学オゾン生成可能性、内分泌かく乱、地球温暖化の可能性）は、これらの成分からは期待されません。

## 13. 廃棄上の注意

残留性廃棄物	現地の規定に従い、処分する。空の容器やライナーには製品の残余物が残っている可能性がある。本物質とその容器は安全な方法で廃棄しなければならない（「廃棄上の注意」参照）。
汚染容器及び包装	製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。
地域の廃棄規制	廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。この物質とその容器は有害廃棄物として廃棄されなければならない。当局により認可を受けた焼却所で焼却しなければなりません。内容物/容器は、地域/地方/国/国際法律に従って処理する。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分量の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

IATA	危険物には該当しない。
IMDG	危険物には該当しない。
MARPOL73/78条約の附属書II及びIBCコードによるバルク輸送	該当しない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	
通知対象物	
シリカ	別表第9 政令番号 312
表示対象物	該当せず。
毒物及び劇物取締法	
特定毒物	該当せず。
毒物	該当せず。
劇物	該当せず。
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	
第一種特定化学物質	該当せず。
第二種特定化学物質	該当せず。
監視化学物質	該当せず。
優先評価化学物質	該当せず。
化学物質排出把握管理促進法	
特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)	該当せず。
第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)	該当せず。
第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)	該当せず。
消防法	消防法の危険物に該当しない。
船舶安全法・危規則	該当せず。
航空法・施行規則	該当せず。
火薬類取締法	
該当せず。	

## 16. その他の情報

### 引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices  
HSDB® - Hazardous Substances Data Bank  
IARC発がん性評価モノグラフ  
National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens  
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告  
日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2012年6月  
JIS Z 7252：2014 GHS に基づく化学品の分類方法  
JIS Z 7253：2012 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示  
及び安全データシート (SDS)

この安全データシートは、日本工業規格JIS Z 7253:2012に沿って作成した。Olympus は、本情報と当社製品、または当社製品と他のメーカーの製品の組み合わせが使用されるあらゆる状況を予測できるわけではありません。製品の処理、保管および処分を行う際に安全な状況を確認するのはユーザーの責任であり、ユーザーは不適切な使用による損失、傷害、損害または費用に法的責任を負います。シート情報は、現在入手できる最高の知識と経験に基づき記入されています。